

発達障害の可能性のある児童生徒等への支援事業報告会

授業のユニバーサルデザイン化

日野市立日野第三小学校
校長 京極 澄子

H27.2.18

教育におけるユニバーサルデザイン

発達障害のある子にとって、
参加しやすい学校、分かりやすい授業は、
他のすべての子にとっても、
参加しやすい学校であり、
分かりやすい授業である。

発達障害に関わるためのキーワード

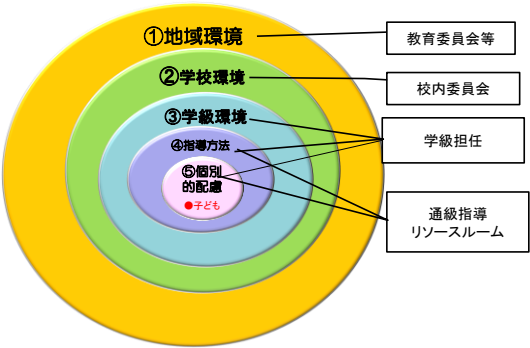
<状況依存性>

- LDは「**学習の仕方**」という**状況**に左右される。
- ADHDは「**刺激量**」という**状況**に左右される。
- 高機能自閉症は「**場が構造的であるかどうか**」
という**状況**に左右される。



状況を整えて困ることを減らす

状況を整える「包み込むモデル」



①地域環境

巡回相談(大学教授・医師)
授業観察・検査結果の解説
学校へのアドバイス・保護者面談など
各校1学期に1回計3回実施

専門委員会(大学教授・医師等)



特別支援学級の設置
就学相談・入級転学相談
各種研修など

教育委員会と福祉

発達・教育支援センター



保・幼稚園→小学校
小→中学校の橋渡し

就学支援シート・進学支援シート
かしの木シート(0歳から18歳)

②学校環境

校内委員会 中心である

校内委員会の役割

I 組織作り	II 理解啓発
III 発見・把握分析	IV 配慮・支援
V 評価	VI 引き継ぎ
VII 連携	その他：不登校対応

日野第三小学校の校内委員会
・コーディネーター 4名
・校内委員会 週1回開催
管理職・生活指導主任・コーディネーター
・組織対応
・多面的実態把握
・情報の一本化
・一貫性、継続性のある指導
・的確・スピーディーな対応（実効性）



(東洋館出版)

日野市コーディネーター
と作った本
校内委員会を上手に運営する
ために

③学級環境

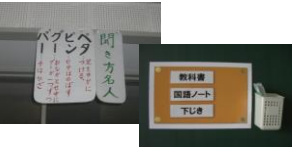
場の構造化



刺激量の調整



ルールの明確化



子供同士の相互理解



違いを認め合う温かな関係

先行条件を整え、 ほめられるサイクルをつくる



Aなし→Bぐちゃぐちゃ→靴がない！
Aシート用意→B→Cすぐ見つかった！

先行条件

→

行動

→

結果条件

③指導方法

時間の構造化



情報伝達の工夫



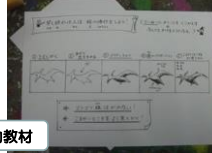
参加の促進

発言の機会をもてるような工夫



ペアで交流

空白の時間をつくらない工夫



補助教材

集中を持続させる工夫

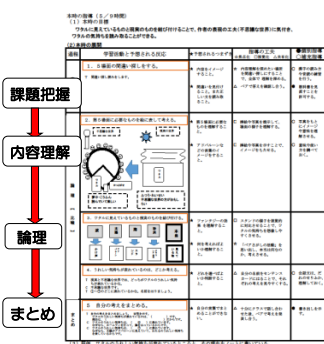


活動の変化
15分×3展開



作業化・動作化

授業内容の構造化



板書を構造化する カードなどの活用

⑤個別的配慮・授業の中で

アドバイスを受けやすく
する工夫
・分かりませんと言える
温かな環境



ヒントカード



実態把握、個別指導計画
ICT利用のシステム化と共有

⑤個別的配慮・リソースルーム

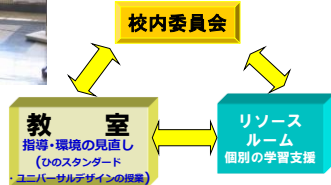
リソースルーム＝校内通称教室「学習の保健室」

クールダウンに使わない、真剣に学ぶ部屋。



H19 モデル校1校から
H26 全学校17校中学校3校に拡大
昨年330人以上が利用

＜25年度調査から＞
小学校でリソースルームに通った子 中学
での不登校0



ひのスタンダード 教育のユニバーサルデザインを目指して



ISBN : 978-4-487-80490-0
定価 : 2,940円 (本体 2,800円) + 税
発売年月 : 2010.07.29
現在8刷
東京書籍

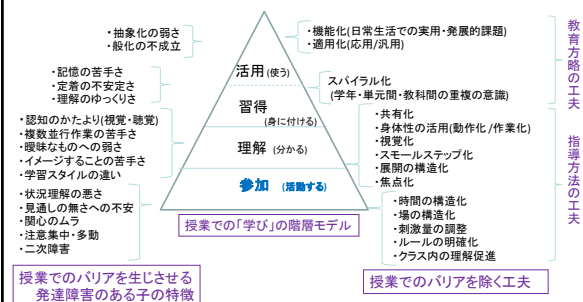
・日野市の全小中25校650名の工夫と教育実践を集めた

・「包み込むモデル」によって整理されている

・それぞれの環境ごとの「チェックリスト」を全教師が活用して実践している

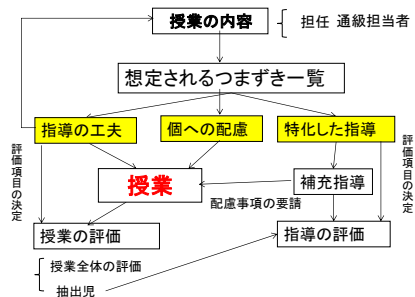
※うまくいった方法はユニバーサルデザインであり特別支援教育の視点がある

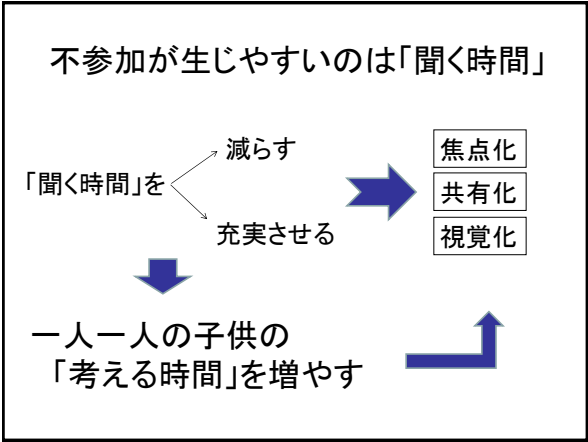
授業のUD化モデル(2012年度版)



授業のユニバーサルデザイン研究会 <http://hwms.gyao.ne.jp/kokugouniversal/> 2012年度大会 8月18日 筑波附属小

つまずきから授業を考える





<ユニバーサルデザインの視点>

授業をデザインする三つの要件

焦 点 化	目標や活動をしぼり、内容理解から論理へ深まるようにする。
視 覚 化	視覚・感覚・動作を入り口にして、思考できるようにする。
共 有 化	一人の考えを他の子供に伝え、理解や思考を深めるようにする。

<教科指導>

国語科説明文・文学指導のねらい
「論理」的な読み方

<説明文> <文学>

①要点	①作品の設定
②問いと答え	②視点
③表現技法	③表現技法
④三段構成	④中心人物の変化
⑤要旨や意図	⑤主題

筑波大附属小学校 桂 聖 先生

焦 点 化

目標や活動をしぼり、説明の内容から論理へ深まるようにする。

目標の焦点化

6年間の系統指導内容

↓

学年の指導内容

↓

単元計画

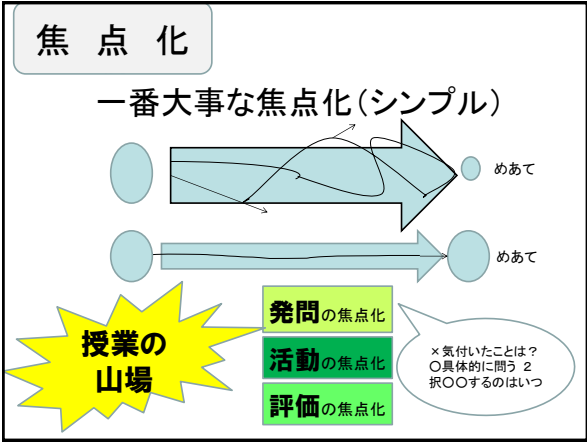
↓

1時間の指導の目標

これらの5つの読み方を柱として、次の表を基盤にして、各学年で読みの学習用語を系統的・横断的に指導していきます。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
読解の基礎	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成
読解の発展	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成	①本文の読み取り ②本文の理解 ③本文の表現 ④本文の構成

説明文の学習用語の6年間系統表



本時案

ねらいの検討

学習活動と予想される児童の実容

つまづきの検討

指導の工夫の検討

個別の配慮の検討

補充指導の検討

課題の共有化

内容理解

論理

まとめ

学習活動	学習活動と予想される児童の実容	つまづきの検討	指導の工夫の検討	個別の配慮の検討	補充指導の検討
1. 導入	学習活動と予想される児童の実容	つまづきの検討	指導の工夫の検討	個別の配慮の検討	補充指導の検討
2. 展開	学習活動と予想される児童の実容	つまづきの検討	指導の工夫の検討	個別の配慮の検討	補充指導の検討
3. 評価	学習活動と予想される児童の実容	つまづきの検討	指導の工夫の検討	個別の配慮の検討	補充指導の検討

焦点化

評価の焦点化

- 何ができれば、目標を達成したかを定める。
- 全員の評価ができる方法を設定する。
- まとめの部分で評価する。
(自分の言葉で書かせる)
(板書に思考過程や児童の発言を残す)
(教師は、モデルを示す)

視覚化

ことばの見える化

むささびを見てみよう？

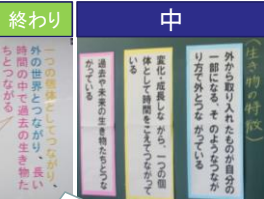
「擬態」をペープサートで表現する。

視 覚 化

論理の見える化(色)



対比の関係



事例とまとめの関係

共 有 化



- ・ ヒント
- ・ 考えの出し合い
- ・ モデリング



特別支援学級(知的固定学級)

焦 点 化



ありの行動だけに注目させる工夫

視 覚 化



バスの窓の大きさを体感させる工夫

共 有 化



動作化を通して内容の理解を共有する工夫

⑤個別的配慮・言語障害通級指導学級



学習の困難さ

↓

個別教材を使って自立活動として指導

↓

「説明文」の指導で教科の補充指導を実施

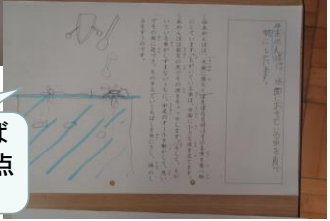
- ・つまずきの予想
- ・事前の補充
- ・事後の補充

イメージが苦手な 4年生B君



学習する段落だけ
残す

絵や動作化でことば
の意味の確認や要点
指導



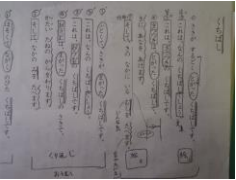
研究の進め方

①教材研究

- 教材解釈
- 単元目標・単元計画
- 本時案



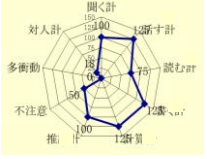
- 学年・通級・管理職
- 講師の先生を囲み
- 楽しい時間・アイデア



研究の進め方

②アセスメント

- 担任のみとり・感性
- 実態把握表・個別指導計画
- CRT学力調査
- 文科省の75項目質問



<学びにくさ>

- ①注意が向けられず、全体での指示を聞けない。
- ②自信をもって、書いたり発表したりすることができない。
- ③中心文を見付け、要点がまとめることが難しい。
- ④文の読みとばしや読み間違いがある。

<配慮>

- ①個別に声をかける。
- ②ペア学習を取り入れ、一対一で話し合う機会を設定する。
- ③第5段落の要点書くときに中心文の見付け方、キーワードを採せない場合はヒントカードを渡し、指導する。
- ④言語障害通級指導学級で予習的に教材を読んでイメージできるようにしておく。センテンスカードに一文ずつ単語の切れ目で改行したものを提示し、読みやすくする。

研究の進め方

③模擬授業による指導案検討

- 模擬授業 20分
- 質疑 10分
- 講評



- 全授業の教材研究を全員で行える
- 指導法の工夫(焦点化・視覚化・共有化)の検討ができる
- 児童の反応の予想ができる

研究の進め方

④全時間公開授業実践

視点を決めて観る

- 抽出児童の観察
- 指導の工夫の有効性
- 個別の配慮の有効性
- 補充指導の有効性
- ねらいの達成



研究の進め方

⑤研究授業・協議会

- 授業者の意図と結果の考察
- 他の学級での実践から考察(集団の違い)
- 通級指導学級から学びにくさの視点
- 固定学級から量・速さ・分かりやすさの視点
- 他校の見学者(アンケートなど)の視点



研究の成果

つまずきに対する指導法の工夫例

- 抽象的な表現が理解できない
- 構造的でないと分かりにくい
- 聞き漏らしや集中の悪さ
- 筆者の意図が読み取れない

論理理解

- 構造の図式化
- 表・構成図
- 板書の工夫・色

- 多くの情報処理が苦手
- あいまいなものへの苦手さ
- 情報の整理の苦手さ

文章読解

- 文の並べ替え
- 表にまとめる
- 色分けして整理

- イメージすることが苦手
- 文の意味が理解できない
- 主語述語が分からない
- 言葉の意味が分からない

文の理解

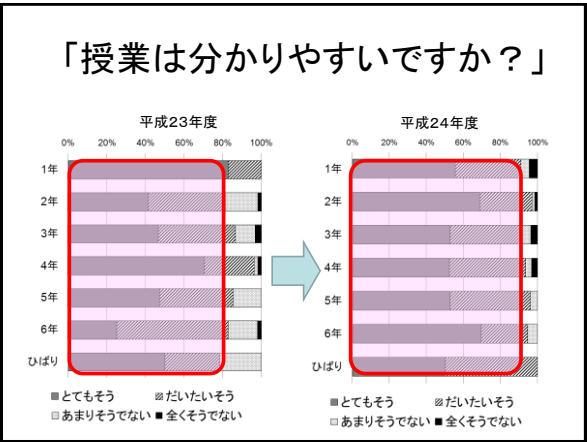
- 写真・挿絵・動画
- 動作化
- まちがいさがし
- センテンスカード

- 音読が苦手
- 文字や漢字が読めない

語の理解

- スラスラ読み
- 教材にふりがな

読字



研究の成果

教師の変容

- 説明文の授業力向上→他教科の指導力向上
- 児童の学習面生活面の様子をみとる力の向上
- 学級経営力の向上→明るく温かな学級の空気
- 教師自身の自尊感情の向上

児童の変容

- 説明文授業への参加意欲の向上
- 説明文の理解の向上→学力全般の向上
- 一人一人の自尊感情の向上
- 児童の相互評価の高まり→よりよい人間関係

今後の課題

- 「授業が分かりやすすくない」と答えてる児童への指導の工夫・個別の配慮を続ける。
- 児童のつぶやき、驚き、疑問から授業を組み立て、全ての発言を活かす指導力をつける。
- 山場(目標)に向かったの効果的なしかけの吟味と開発を行う。

市内全小中学校でユニバーサル デザインの授業研究会 (25・26年度)

2年間かけ市内全小・中学校で
25校×2回＝50回以上
2年続けた学校も

講師 明星大学教授 小貫信先生

視点を決めて観る

成果

確かな授業の変化
想定外のつまづき発見
発達障害の理解の深化

今後

小中授業のつながりを探る
⇒これだけは必ず小学校で学ぶこと・コアスタンダードの
策定作成委員会の立ち上げ(26年度)
リソースルームでまず実施予定(27年度)

だれにもよい教育・授業の追究は永遠のテーマ
維持・充実・発展……まだまだ続く